

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	2 愛着と誇りをもって住み続けられる暮らし・人づくりをする
具体的な施策	ウ 高齢者等が活躍できる場の創出及び社会参加や生きがいきづくりの促進
	② 健康長寿対策の促進
	1 誰もが健康長寿に暮らせる社会づくりの推進
事業名	介護予防普及啓発事業
担当課名	福祉長寿課
所属長名	萬屋三男
関係課名	
事業の目的	65歳以上の高齢者を対象とした介護予防の各教室や住民意識の向上を目的とした啓発活動を行うことで、自立した日常生活を助長する。
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各種介護予防教室の開催（スクエアステップ・シニアヨガ・みるみる元気塾） ・広報誌「めじる88」の定期発行 ・各種集いへの講師派遣 ・講演会の開催
事業の実績・取組状況	介護予防普及啓発事業 4,094千円 ・スクエアステップ教室27回/シニアヨガ教室12回/みるみる元気塾22回 ・広報誌4回全世帯配布 ・講師派遣69回 ・講演会2回「認知症に関すること」「地域包括ケアシステムに関すること」
成果（できたこと）	介護予防の各種教室の開催が自主的なサークル化に発展するなど、介護予防についての住民の意識向上に繋がっている。
課題（できなかったこと）	地域からの要望がなく開催できなかったプログラムがあった（フラダンス教室・演歌体操教室）
担当課評価	B 今後も効果的かつ継続性の期待できるプログラムを提供し、介護予防の場づくりを進めていく。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的かつ魅力的な介護予防プログラムに関する情報収集 ・過疎化がすすむ小地域へ対応するために参加者の移動手段の確保
委員評価	B 2次評価のとおり

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	2	愛着と誇りをもって住み続けられる暮らし・人づくりをする	
具体的な施策	ウ	高齢者等が活躍できる場の創出及び社会参加や生きがいづくりの促進	
	②	健康長寿対策の促進	
	1	誰もが健康長寿に暮らせる社会づくりの推進	
事業名	高齢者見守りネットワーク事業		
担当課名	福祉長寿課	所属長名	萬屋三男
関係課名			
事業の目的	在宅の一人暮らしの高齢者等が地域から孤立することを防止するとともに、その異変を早期に発見して必要な援助を行い、保健・医療・福祉等のさまざまな課題に対する相談支援体制を充実させる。		
事業の内容	見守り協力員は、日常生活の中で声かけや見守り（訪問・姿・灯りの確認等）を行い、協力事業所は、日頃の業務・活動中におけるさりげない見守りを行っている。また見守り協力員からは、1カ月に一度登録者の見守り活動状況報告書の提出がなされている。町は、見守り協力員等の研修の実施、連絡調整、利用者等からの相談、問い合わせ等の内容に応じ、必要な支援を行う。		
事業の実績・取組状況	見守り協力員への謝礼の支出を行った。 210千円 平成27年度中に、新たに1地区(見守り協力員3人、利用者15人)の加入を見ることができた。 【参考】平成27年度末現在 町全体で8地区(見守り協力員44人、利用者84人)実施。 登録協力事業所数 102事業所		
成果（できたこと）	見守り協力員の連絡による高齢者の安否については、登録者の行き先確認、身体の発見に繋がった過去の事例からも成果をもたらしている。		
課題（できなかったこと）	事業説明を求められる機会はあるものの、見守り協力員を探せないことなどから思うような事業拡大に至っていない。今後は協力事業所を巻き込んだ取り組みが必要と思われる。		
担当課評価	B	今後も、高齢化が進展するとともに、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯は増加すると予想される。これまでの見守り体制の見直しとともに、適切な支援ができる地域の体制を整えることも必要である。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	一人暮らしの高齢者が、住み慣れた地区で安心して暮らすためにも、今後もサポート体制の周知とともに事業拡大が必要である。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	2	愛着と誇りをもって住み続けられる暮らし・人づくりをする	
具体的な施策	ウ	高齢者等が活躍できる場の創出及び社会参加や生きがいづくりの促進	
	②	健康長寿対策の促進	
	1	誰もが健康長寿に暮らせる社会づくりの推進	
事業名	買い物支援事業		
担当課名	福祉長寿課	所属長名	萬屋三男
関係課名			
事業の目的	高齢者等の日常生活の支援策として、食品・日用品の買い物などで手助けを必要としている高齢者等を対象に、登録事業所による商品の配達を行うことによって、高齢者への利便性の向上を図り、また訪問の際に声をかけるなどの見守りを行うことで、安否確認にも寄与する。		
事業の内容	電話また訪問によって、登録者から配達事業者が食料品、日用品を受注し、その商品を自宅まで届け、商品受領のサインの記入・印鑑押印を行う。併せて商品の受領時に安否確認を行う。		
事業の実績・取組状況	買い物支援事業を行う指定事業者に対し、配達回数×100円の補助を行う。 252千円 (H28.4.1から配達回数×200円) 登録者数207名、延べ利用回数2,520回		
成果（できたこと）	登録者数に関する目標は概ね達成できており、高齢者の買い物などの手助け及び安否確認に繋がっている。		
課題（できなかったこと）	登録者数に比して、実利用者数が少なく、内在している利用希望者がもっといるものと思っており、それらのニーズを探る必要がある。		
担当課評価	B	目標は達成できているものの、今後も対象となる高齢者の利用拡大に向けて取り組む必要がある。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	平成27年度は、指定事業者に集まってもらい、意見交換会を開催した。今後は、幅広い利用に向けて広報紙等での呼びかけや、より分かりやすいチラシの制作などの工夫によって利用者の増大を図る。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	2	愛着と誇りをもって住み続けられる暮らし・人づくりをする	
具体的な施策	ウ	高齢者等が活躍できる場の創出及び社会参加や生きがいの促進	
	②	健康長寿対策の促進	
	1	誰もが健康長寿に暮らせる社会づくりの推進	
事業名	特定健康診査等事業		
担当課名	健康保険課	所属長名	荒木 宣貴
関係課名			
事業の目的	メタボリックシンドローム（内臓脂肪型肥満）に着目した特定健康診査を実施し、生活習慣病を予防するため、保健指導を必要とする者を抽出する。		
事業の内容	特定健康診査（質問項目、身体測定、血圧測定、血液化学検査、肝機能検査、血糖検査、尿検査）の実施。		
事業の実績・取組状況	特定健康診査等事業 22,173千円 町内6医療機関（個別）及び健康事業団（集団）による健診実施。 平日の夜間（18:00～20:00の4日間）及び土曜日（9:00～12:00）の実施。（H27年度8月と9月に1回ずつ）		
成果（できたこと）	平成26年度受診率38.3%から平成27年度受診率41.1%に上昇することができた。		
課題（できなかったこと）	国の目標値である60%には、程遠い状況。		
担当課評価	C	町内の医療機関では診療と併せて健診を行っており、受診者を増やすための受け入れ態勢が限界に来ており、個別健診での受診率アップを図るのが難しくなっている。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	町外（県内）での実施体制、みなし健診、受診データの提供、集団実施時の受診者拡大等個別健診以外の受診体制を強化する必要がある。		
委員評価	C	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	2	愛着と誇りをもって住み続けられる暮らし・人づくりをする	
具体的な施策	ウ	高齢者等が活躍できる場の創出及び社会参加や生きがいづくりの促進	
	②	健康長寿対策の促進	
	1	誰もが健康長寿に暮らせる社会づくりの推進	
事業名	健康マイレージ事業【新規】		
担当課名	健康保険課	所属長名	荒木 宣貴
関係課名			
事業の目的	町民の健康に関する意識の向上及び主体的な健康づくりを推進し、健康寿命の延伸と健康の保持増進を図り、健康に関心がない方や若者に対し健康を意識する「きっかけ」づくりとし、特定健診・がん検診の受診率向上、引いては医療費の削減に繋がることを目的とする。		
事業の内容	特定健診やがん検診及び町が行う健康に関する教室や事業に参加することにより一定ポイントを付与し、必要ポイントが貯まった方に対し、商品券等の景品との交換を行う。		
事業の実績・取組状況	新規事業のため、平成27年度の取り組みなし。		
成果（できたこと）	—		
課題（できなかったこと）	—		
担当課評価	—		
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	平成28年10月より、事業を開始することができた。今後、健康づくり事業を行う関係各課と協議を行い参加できるところから事業の拡大を検討する。		
委員評価	—	次年度以降に評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。